

# 追悼の辞

関西大学商学部長

加藤 義忠

1994年9月5日に木田和雄教授は急逝されました。半年間の入院の後、同年4月より闘病生活を続けられながら、見事教壇に復帰され、淡淡と講義されていただけに、残念でなりません。享年64歳。慎んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

教授は、1957年4月に本学商学部助手に就任されて以来37年の長きにわたり、研究・教育のみならず大学行政に大きな貢献をなされました。

教授は研究面については、大きく分けて2つの方向で寄与されました。1つは、教授本来の研究分野であるラテン・アメリカ経済にかんする研究です。ここでは、教授は堪能なスペイン語等の語学力を駆使され、オリジナルな資料をもとに歴史的分析や現状分析をなされました。もう1つは、ラテン・アメリカ経済の具体的考察を基礎とした南北問題にかんする研究です。ここでは、第2次大戦後の新植民地主義および発展途上国の国民経済の真の自立についての教授独自の考え方が提示されています。

大学行政にかかわる教授の貢献についていえば、学生部長代理（1974年10月～76年9月）、商学部長代理（1976年10月～77年9月）、商学部長（1983年10月～84年9月）、大学協議会協議員（1985年6月～87年5月）、一般教育等研究センター所長（1988年10月～90年9月）などの要職を歴任されました。また、1988年10月～92年9月まで、商学部選出の学校法人の評議員としても活躍され、大学の発展に大いに貢献されました。

関西大学をこよなく愛された教授の情熱や貢献は長くたたえられ、本学の発展にかぎりない力をあたえて来ています。なお、この貢献によって、1994年9月5日付けで名誉教授の称号があたえられたことを申し添えておき

ii

ます。

故人の生前の学問と人柄を追慕し，ここに追悼号をあむこととなりました。故人の遺徳をしのぶよすがとなれば，幸いに存じます。

1995年6月1日